文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

DDユニット事業推進室だより

ダイバーシティ・ダイヤモンド（DD）ユニット
事業推進室

3機関連携女性研究者支援事業　国立大学法人 東京医科歯科大学　順天堂大学　株式会社 ニッピ

2号
平成29年3月

シンポジウム「女性の研究力向上～上位職を増やすためには～」の開催

平成28年12月13日（火）に、第2回合同シンポジウム「女性の研究力向上～上位職を増やすためには～」を3連携機関（東京医科歯科大学、順天堂大学、株式会社 ニッピ）の主催で開催いたしました。

来賓挨拶において、真先正人氏（文部科学省、大臣官房審議官）より、科学技術こそが日本の原動力であり、人材こそが強みであるという目線から、成長戦略の一環として女性研究者の活躍促進が非常に重要であるというメッセージを頂きました。

基調講演「女性はもっと活躍できる」の岩田喜美枝氏（公益財団法人21世紀職業財団 会長、前・株式会社資生堂 代表取締役副社長）は、女性が活躍するためには、男女共に家庭責任を担いながら、キャリアアップできるよう環境整備をする必要があると話されました。その実現のためには、子育て中の女性職員に対して仕事免除型の支援を行うよりも、すべての職員を対象として、長時間労働の制限やフレキシブルな勤務体制の導入を進め、働き方改革に取り組む方が有効であると述べられました。また、「難しい仕事や異動を提示された場合は、成長のチャンスなので逃げないでほしい」と働く女性へのエールを頂きました。

伊達紫氏（宮崎大学、理事・副学長）は、講演「女性を上位職に育成・登用するための方策」のなかで、ご自身が理事として「女性活躍」と「人財育成」の両方を担当していることが相乗効果を発揮し、学長のリーダーシップのもとに宮崎大学における女性研究者の上位職登用が順調に進み始めていることを具体的な例を挙げながらお話しされました。

次いで、「女性研究者育成のための取組紹介」では、東京医科歯科大学と順天堂大学の各研究室において、妊娠・出産・育児と仕事・研究の両立のために、どのような配慮がなされているのか、またその課題について、若手研究者とベテラン研究者（東京医科歯科大学 心肺統御麻酔学分野：里元麻衣子講師＆槇田浩史教授／順天堂大学 産婦人科学：松村優子大学院生＆北出真理教授）がペアになり、発表を行いました。

そして「無意識のバイアスについて考える」と銘打ったパネルディスカッションでは、競争の激しい研究者の世界において、ライフイベントを抱えながら研究活動を続けるためには、メンター制度の導入や個別の事情に寄り沿ったオーダーメイド型の支援が有効であることが確認されました。

男女共に意識的に働き方を見直すことにより、心にゆとりが生まれ、寛容な心で他者に接することができ、そして、プライベートの充実は、仕事・研究の充実化にもつながり、好循環を創出することができます。この好循環こそが、“無意識のバイアス”を払拭する糸口になることが提案され、シンポジウムを終了しました。

研究力強化の支援

研究主宰者としてのスキルを有するPI（Principal Investigator）を育成することを目的に、女性研究者が研究代表者となる共同研究を支援しています。

平成28年度は、下記の通り3機関合わせて全10名の女性研究者が実施する共同研究を支援しました。10月には中間成果報告書の提出を受け、研究の進捗状況の把握及び中間評価を行いました。

平成28年度採択者	所属機関	職位	研究テーマ
松原　直子	東京医科歯科大学	助　教	Bリンパ球抑制性受容体CD22を標的にした多発性硬化症制御法の開発
船戸　紀子	東京医科歯科大学	准教授	先天性疾患に関わるTbx1転写因子とコラーゲン分子群の相関に対する網羅的解析と創傷治癒改善効果への可能性
井関　祥子	東京医科歯科大学	教　授	Nager症候群の発症機構に関する分子生物学的解明
貫井　陽子	東京医科歯科大学	准教授	新生児集中治療領域で分離される市中感染型MRSAの解析
千葉　麻子	順天堂大学	准教授	MAIT細胞を標的とした炎症性腸疾患の新規治療法開発
長瀬　美樹	順天堂大学	准教授	生活習慣病と鉱質コルチコイド受容体（MR）活性化～環境因子によるエピゲノム制御機構の解明～
齋藤 アンネ優子	順天堂大学	准教授	放射線療法により、疼痛部の痛みが消失した多発骨移転に対する予防的放射線療法は必要か？
桑葉くみ子	株式会社 ニッピ	課　長	コラーゲンペプチドの経口摂取が健康状態に及ぼす効果について
加来　祐子	株式会社 ニッピ	課　長	動物細胞による組換え蛋白質の生産性増強に関する研究
藤﨑ひとみ	株式会社 ニッピ	課　長	コラーゲン会合体が、株化ガン細胞の幹細胞性（stemness）に与える影響を薬剤排出能で評価する研究

共同研究支援研究成果発表会

日 時 **平成29年2月28日（火） 13:00～16:00**

場 所 **東京医科歯科大学**

平成28年度の研究成果を発表するため、各共同研究の研究代表者によるプレゼンテーションが行われました。支援2年目となる本年度は、研究テーマに関連した特許申請の準備が進められるなど、大きな進捗が見られました。本成果発表の評価をもとに、平成29年度の支援対象者を決定しました。

リーダーシップ向上支援

リーダーシップ向上セミナー開催

将来グローバルに活躍できる女性リーダーを育成するための連続講座「リーダーシップ向上セミナー」を開催し、平成28年度は全5回の講座あわせて延べ182名の方々にご参加いただきました。

第1回　「企業におけるリーダーの育成」

講師：國井　秀子氏

（芝浦工業大学　学長補佐・大学院工学マネジメント研究科　教授
元リコーITソリューションズ株式会社　取締役会長執行役員）

日時：平成28年11月17日（木）　14:00～15:00
会場：東京医科歯科大学　M&Dタワー11階　大学院講義室3

内容：●企業の人材育成／リーダーシップ育成の事例紹介●人材育成／リーダーシップ育成における企業と大学の相違点と類似点

参加者の声：女性がリーダーとして働くために求められる力、社会の体制などを知ることができました。

第2回 「怒りの感情のマネジメントとコミュニケーション」

講師：枝川　義邦氏
（早稲田大学　研究戦略センター　教授）

日時：平成28年11月21日（月）　12:00~13:00
会場：東京医科歯科大学　M&Dタワー11階　大学院講義室3

内容：●怒りのメカニズムとマネジメント●コミュニケーションのスタイルとスキル
参加者の声：怒りの感情を出してしまうことで、失敗、自己嫌悪することが多かったが、出し方やメカニズムを知ることで少しマネジメントできそうな気がした。

第3回 「より広いビジョンを持つために ～"体験こそ宝"～」

講師：渡辺　美代子氏
（科学技術振興機構　ダイバーシティ推進室長）

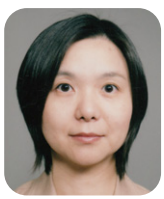
日時：平成28年12月20日（火）　12:00~13:00
会場：東京医科歯科大学　M&Dタワー11階　大学院講義室3

内容：●自分の「目標」を実現するために必要なマネジメントスキル●チャレンジ意識を高める方法●自分にしかできない価値を考える 等
参加者の声：異なる分野の人々との繋がりを大事にすることを学び、ためになりました。

第4回 「研究室のマネジメント」

講師：小川　賀代氏
（日本女子大学　理学部数物科学科　教授）

日時：平成29年1月20日（金）　12:00~13:00
会場：東京医科歯科大学　M&Dタワー21階　大学院講義室1



内容：●研究室をマネジメントするための方策●女性研究者がラボを持つということ●若手研究者を育成する上で心がけていること 等
参加者の声：自分のラボと雰囲気が違ったので面白かった。同テーマでの複数の発表者に対しシンポジウム形式で話を聞くと面白いと思った。

第5回 「大学病院で男女が心地よく働くために」

講師：齊藤　光江氏
（順天堂大学大学院　医学研究科　乳腺・内分泌外科学　教授）

日時：平成29年2月2日（木）　12:00~13:00
会場：順天堂大学　センチュリータワー北4階教室（405）

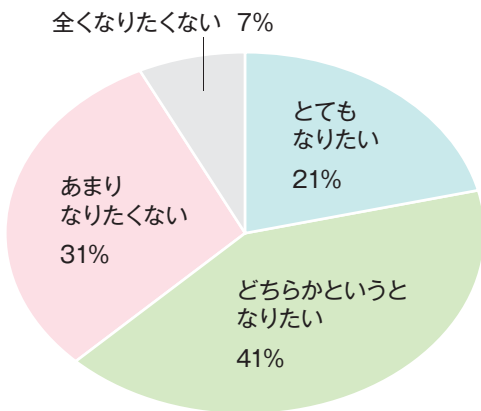
内容：●日本の労働人口減少は、女性と高齢者の労働を必要とする●大学病院を好む女性医師が多いのは、働き方の多様性を支援できる組織力が期待されているから●職場での男女共同参画は、家庭での共同参画とともにある●いつでもどこでも"感謝"が"感謝"を生む
参加者の声：女性が働きたい動機を明確にして理解してもらうことが重要であるとわかった。病院や医師の現状等を知ることができて勉強になった。

キャリアアップに関する意識調査

女性が上位職に就くための促進要因・阻害要因を様々な因子から明らかにするため、連携機関に所属する研究者を対象に、「キャリアアップに関する意識調査」を平成28年3月に実施しました。3機関に所属する男女の研究者・大学院生を対象とし、全259名（女性151名・58.3%、男性108名・41.7%）の方にご回答を頂きました。調査結果の一部をご紹介いたします。

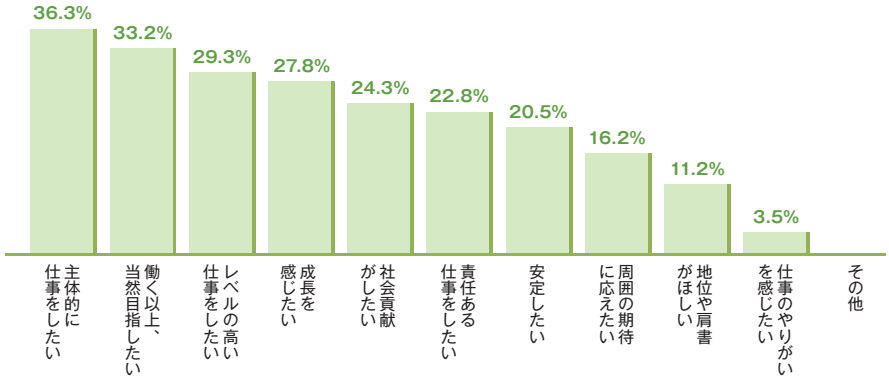
Q 将来、リーダーや上位職になりたいと思いますか？

将来、リーダーや上位職になりたいか（N=162）については、「とてもなりたい」と「どちらかというとなりたい」の回答数を合わせると（62%）、全体的には「リーダーや上位職になりたい」と希望する者の方が多い結果でした。



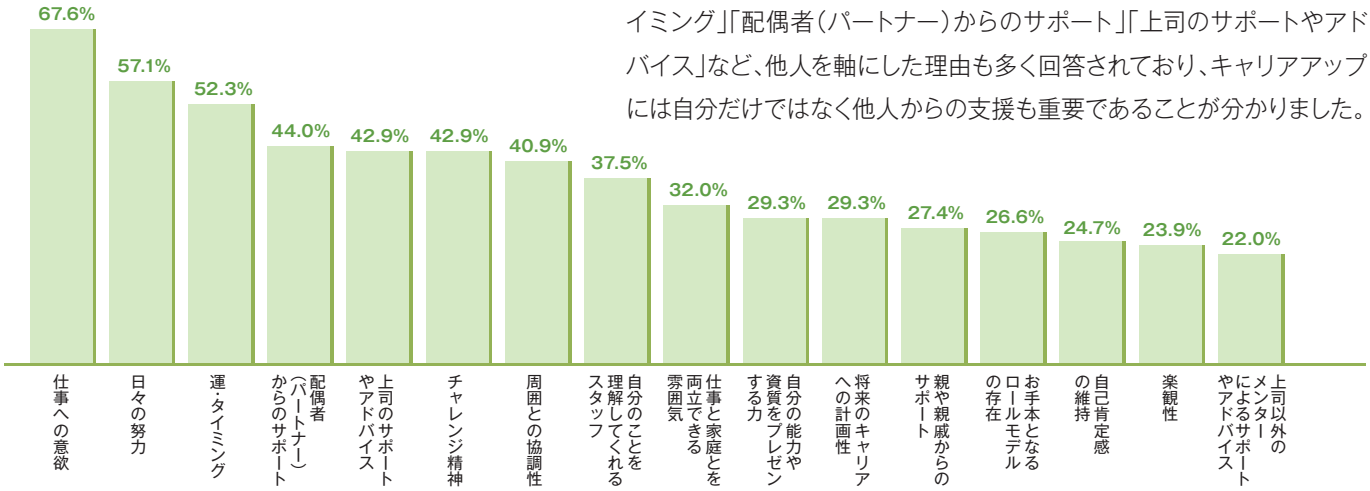
Q 「リーダーや上位職になりたい」とお答えの方、その理由をお知らせください。（複数回答可）

リーダーや上位職になりたい理由として、「主体的に仕事をしたい」が最も多く、次いで「働く以上、当然目指したい」「レベルの高い仕事をしたい」等、仕事への成長や達成を理由とする場合が上位を占め、次いで社会貢献や安定性などの理由が見られました。



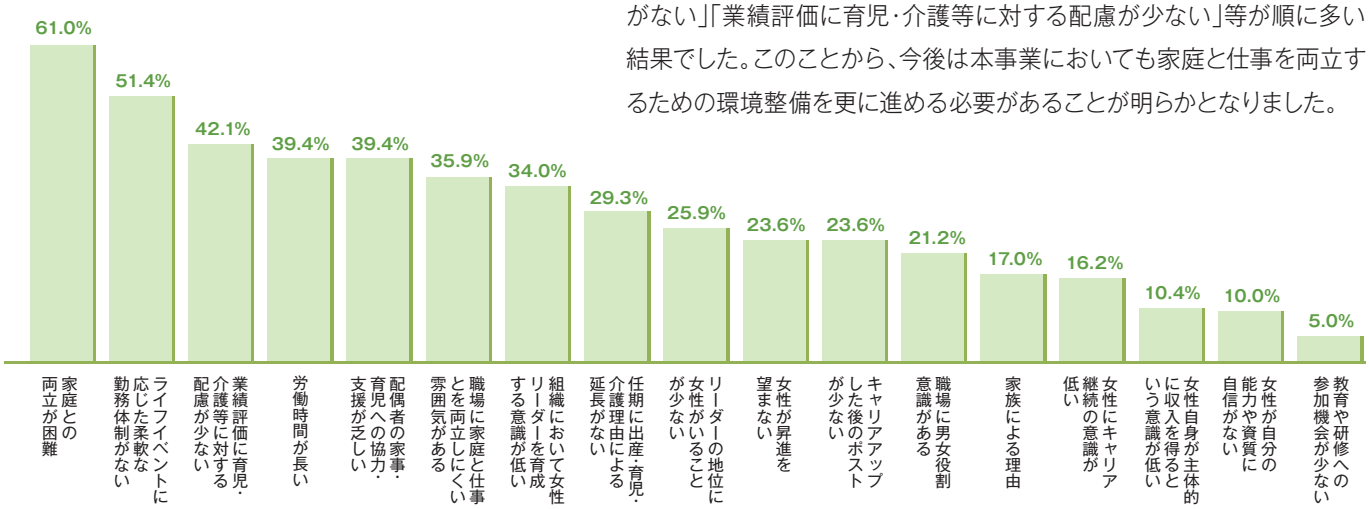
Q ご自身のキャリアアップに何が有効と思われるか（有効であったか）を教えてください。（複数回答可）

キャリアアップに有効と思われるものについては、「仕事への意欲」が最も多く、「日々の努力」「運・タイミング」「配偶者（パートナー）からのサポート」「上司のサポートやアドバイス」等が順に多い結果でした。仕事へのモチベーションや日々の努力など、自分を軸にした理由の他に、「運・タイミング」「配偶者（パートナー）からのサポート」「上司のサポートやアドバイス」など、他人を軸にした理由も多く回答されており、キャリアアップには自分だけではなく他人からの支援も重要であることが分かりました。



Q 女性がキャリアアップしにくいと思われる要因を教えてください。（複数回答可）

女性がキャリアアップしにくいと思われる要因としては、「家庭との両立が困難」が最も多く、次いで「ライフイベントに応じた柔軟な勤務体制がない」「業績評価に育児・介護等に対する配慮が少ない」等が順に多い結果でした。このことから、今後は本事業においても家庭と仕事を両立するための環境整備を更に進める必要があることが明らかとなりました。



育児・介護と研究との両立支援

ファミリーサポート事業

連携機関に在籍している女性研究者（依頼会員）が育児と研究とを両立できる環境を整備するため、子育てを支援したい地域の方々（提供会員）の協力を得て、独自のファミリーサポートシステムを構築し、運用しています。平成28年度は新たな提供会員養成のための講習会として「保育サービス講習会」を2回（7月・1月）、既に提供会員となった方のためのスキルアップ研修会を2回（9月・3月）、ファミリーサポート事業の内容を紹介するための事業説明会を1回（10月）、開催しました。また活動報告を兼ねての広報誌「ファミサポ通信」の第2号・第3号を発行しました。

会員総数（人）	78
提供会員	48
依頼会員	30
（内訳）東京医科歯科大学	24
順天堂大学	4
株式会社 ニッピ	2

ファミリーサポートスタッフによるおすすめ本　『子どもはみんな問題児』（池田いづみアドバイザーより）

「子育て中のお母さんが元気になる本」として2015年に中川李枝子さんが書かれた『子どもはみんな問題児』をご紹介します。内容は中川さんが実際にみどり保育園で保育士として働いていた時に感じられた子どもたちの素晴らしさ、やさしさ、力強さなど。そして何より子育て中のお母さんがまぶしいほど輝いていることが書かれています。私が最初に共感したのは、はじめに（6頁）に書かれている、「子どもへの最高の褒め言葉は『子どもらしい子ね』ではないでしょうか。」という書き出しで始まる以下のような文章です。＜子どもらしい子は全身エネルギーのかたまりで、ねとねと、べたべたした熱い両手両足で好きな人に飛びつき、からみつき、ほっぺをくっつけて抱きつきます。大人からすれば「ちょっと待って！」と言いたくなるときでも、子どもらしい子に「待った！」のひまはありません。＞の部分でした。そうだったなーと実感をもって思い出し笑顔になりました。たくさんの気づきを与えられる本ですが、終わり（153頁）にも驚くような指摘が書かれていました。＜最後にお母さんはじっくり子どもに向き合うのと同じぐらい世の中に関心を持たなくちゃいけません。社会の一番先頭に立っているのですから。児童憲章を知り、選挙にも行き、健康診断もかかさない。ほかのお母さんから学ぶことも大事です。そうして自分も成長するのです。＞ぜひお読みください。きっと皆さんが笑顔になり元気が出ることでしょう。思い起こせばわが子が私のひざを必要としたのは、ほんの短い時間だったと懐かしみながら、あの頃自信もなく悩みながら子育てしていた時にこの本があればと思いつつ。

ファミサポ通信　第3号　発行 2017.3

一年間の活動を振り返って

「ファミリーサポートを利用して」　依頼会員さんからのメッセージを紹介します♡

依頼会員　HARUくんママ　より

依頼会員　二児の母　より

研究支援員配備事業

出産・育児、介護等のために十分な研究時間を確保できない研究者に対し、研究支援員を配備しています。平成28年度は、17名の女性研究者（東京医科歯科大学：2名／順天堂大学：14名／株式会社 ニッピ：1名）に研究支援員を配備しました。支援を受けた女性研究者には報告書を提出してもらい、その効果や研究の進捗状況の把握等を行っています。

第1回　研究支援員ランチタイム交流会

日　時　**平成28年9月28日（水）12:00～13:00**

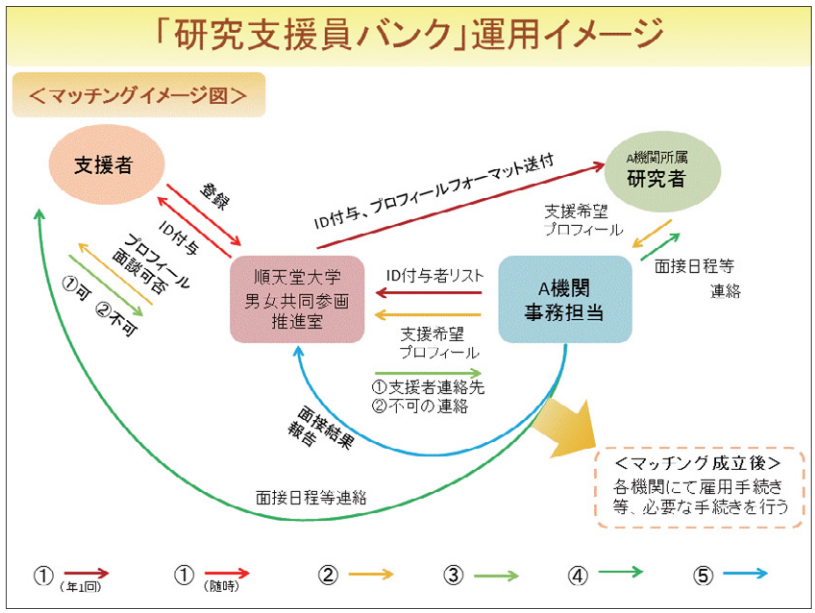
場　所　**東京医科歯科大学**

参加者　東京医科歯科大学の研究支援員および研究支援員を受け入れている研究者、東京医科歯科大学、順天堂大学、株式会社 ニッピの本事業関係者

研究支援員配備事業ではこのたび初めて、研究支援員の方々を対象にしたランチタイム交流会を開催しました。研究支援員同士、お互いにどのような支援業務を行っているかを知り、学内でのネットワークを作り業務を円滑に進めることが開催の目的です。交流会では各参加者が日々の支援内容の紹介や、ラボ内でのコミュニケーション方法、学びたい実験技術等について意見交換を行い、交流を深めることができました。

研究支援員バンク

研究支援員配備事業に採択された研究者と、当該研究者が求めるスキルを持った研究支援員とのマッチングをスムーズに行うため、研究支援員としての勤務を希望する方に予め登録をしていただく「研究支援員バンク」の運用を開始しました（連携機関内で共同運用）。「研究支援員バンク」により、今年度2件（東京医科歯科大学：1件、順天堂大学：1件）のマッチングが成立しています。来年度は「研究支援員バンク」への登録者を増やすとともに、研究支援員の方にも持っているスキルを十二分に発揮いただけるよう、より効果的かつスムーズなマッチングを図ってまいりたいと思います。バンクへの登録をご希望される方は、DDユニットHP（http://www.tmd.ac.jp/cmn/ddu）にて詳細をご確認ください。



産学連携の支援

女性研究者が有する研究シーズをステップアップさせ、実用化への橋渡しを促進するため、共同研究の支援を行っています。

平成28年度は、下記の通り全5名の女性研究者が実施する共同研究を支援しました。平成27年度からの継続者3名については9月～10月にかけて中間成果報告書による進捗状況の報告を受けました。その中には特許申請の準備を進めている女性研究者もいます。平成28年10月から採択された2名は、株式会社 ニッピが提供する研究ニーズに係る共同研究を推進しています。

平成28年度採択者	所属機関	職位	研究テーマ
里　元　麻衣子	東京医科歯科大学	講　師	気管内挿管に最適な枕の開発
横　井　多　恵	東京医科歯科大学	助　教	3D-MRIによる新規画像補正技術を用いた、眼球形態変化に起因する眼内部構造変化の病態解析
Beate　Heissig	順天堂大学	准教授	発がんを含めた炎症性疾患病態におけるプロテアーゼ群の機能解析
船　戸　紀　子	東京医科歯科大学	准教授	骨形成促進コラーゲンペプチドの探索およびその作用機序解析研究（株式会社 ニッピが提供する研究ニーズ）
大　石　由美子	東京医科歯科大学	テニュアトラック准教授	筋衛星細胞の新規培養法の開発と筋ジストロフィー症治療への応用（コラーゲン、ゼラチンの再生医療への応用研究）（株式会社 ニッピが提供する研究ニーズ）

産学連携　共同研究支援研究成果発表会

日 時　平成29年3月7日（火）10時～12時
場 所　東京医科歯科大学

平成28年度の共同研究の成果を発表するため、各共同研究の研究代表者によるプレゼンテーションが行われました。

本成果発表会では平成29年度の共同研究継続の審査が実施され、今後の産学連携研究として実用化の可能性が高いと評価された4名が継続採択されました。

産学連携研究セミナー開催

平成28年度は2回の連続セミナーを開催し、あわせて延べ104名の方々にご参加いただきました。

第1回　「高野式プレゼンテーション ～凝らずになんとなくプロっぽい～」

講師：髙野　秀一氏
（順天堂大学　研究戦略推進センター　URA）

日時：平成29年2月16日（木）　12:00～13:00
会場：順天堂大学　センチュリータワー北4階教室（405）

内容：「なんとなくプロの雰囲気」を醸し出すプレゼンの考え方と作成のコツ●説得のためのプレゼン●アリストテレスの説得●心地よいスライドとは●身近なプレゼン作品集「電車内広告」
参加者の声：資料を作るのに一杯一杯で、一番大切な「相手の視点」を軽視してしまっていたと反省した。今日の業務から心がけていきたい。

第2回　「女性研究者による企業との共同研究 ”ことはじめ”」

講師：濱田　千江子氏
（順天堂大学　医学部内科学教室・腎臓内科学講座　准教授）

日時：平成29年3月2日（木）　12:00～13:00
会場：順天堂大学　センチュリータワー北16階

内容：女性研究者による企業との共同研究「ことはじめ」●企業との共同研究をはじめたきっかけ●企業との共同研究と通常の研究との違い●企業との共同研究の魅力●企業との共同研究のすすめ
参加者の声：研究の厚み、負担減、ブレイクスルー、社会貢献などメリットが明示され、またそれに反するデメリットと対策が参考になった。

メンター制度

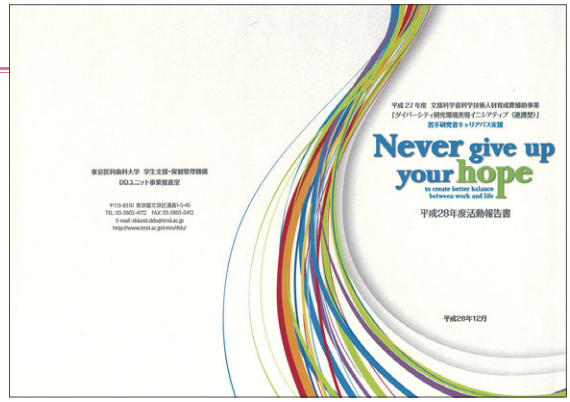
女性研究者（メンティ）が抱えるキャリア形成や研究に関する悩み、ライフイベントとの両立に関する悩みなど、研究全般に係わる相談内容にメンター（相談を受ける者）が対応しています。

各連携機関から、様々な専門分野に対応可能なメンターを選定し、メンティからの相談を受け付けています。現在までに8件（女性研究者4名）の相談に対応しており、内訳としては研究に関することが6件、キャリア形成に関することが2件です。

若手研究者キャリアパス支援

大学院生を含む若手研究者が、キャリアデザイン力を磨き、自分らしいキャリアパスを描けるよう、課題解決に向けた自主企画の実施を支援しています。平成28年度は東京医科歯科大学、順天堂大学の大学院生あわせて3名が参加しました。

企画内容は①男女役割平等意識に関するアンケート調査の実施、②研究者向けの交流会の開催でした。①については平成28年10月27日（木）から平成28年11月11日（金）までウェブ上で調査を行い384件の回答を得て、メンバーが集計・分析を進めました。②については平成28年11月29日（火）にディスカッション交流会「研究の悩み、どうやって解決していますか？」を開催し、活発な意見交換を行いました。①②の詳細は平成28年度の本事業活動報告書に掲載されています。



第6回 順天堂大学女性研究者研究活動支援シンポジウム

平成29年1月21日（土）に、東京医科歯科大学・株式会社 ニッピとの共催にて第6回順天堂大学女性研究者研究活動支援シンポジウム「一不断前進一女性研究者支援の現在と未来～多様・柔軟・創造性を究める～」を開催しました。当日は学内外から60名が参加し、女性研究者のキャリア形成と大学における支援のあり方について考える機会となりました。

編集後記

女性研究者のみなさんが思い通りに活躍できる環境づくりと素敵な笑顔で輝ける未来を全力で支援いたします！

（東京医科歯科大学　**佐々木**）

本事業に携わり、順天堂大学や株式会社 ニッピの方々と交流できることの喜びを日々感じています。領域を越え、新たな世界に接することができる面白さは、ダイバーシティ推進の醍醐味のように思います。

（東京医科歯科大学　**中村**）

ライフイベントで左右されがちな女性の人生…キャリアのトップランナーといわれる医師や研究者も例外ではありません。この事業への関わりを通じて、誰もが「幸せ」を実感できる社会に向けての一助になれば幸いです。

（東京医科歯科大学　**井坂**）

本事業も4月より3年目がスタートします。土壌をととのえ、種をまき、新芽が出てきた29年度は女性研究者の目線にたった細やかな支援を心掛け、本事業が実を結ぶよう頑張っていきたいと思います。

（東京医科歯科大学　**小林**）

ここに所属して改めて感じた、いまだに女性に不利な日本の社会文化と制度…女性はまだマイノリティですね。自身の活動が僅かでも支援につながれば、本当に嬉しい限りです。

（東京医科歯科大学　**遠藤**）

これまでも女性研究者支援の取組を行ってきましたが、他大学・企業での取組を伺うと、多くの気づきがあり視野がとても広がりました。更なる効果的な女性研究者支援の取組を実施できるよう努力してまいりたいと思います。

（順天堂大学 男女共同参画推進室）

この事業に関わらせて頂き事務仕事がとても多く大変でした。又企業と大学との違いに気づくと共に、参加されている女性研究者の力強さをとても感じております。この支援が女性研究者に留まらず、全ての働く女性の支援に結び付くような大きな事業に発展していく事を望むと共に、更なる支援に努力していきたいと思います。

（株式会社 ニッピ　**大谷**）

編集発行

DDユニット事業推進室
〒113-8510　東京都文京区湯島 1-5-45　東京医科歯科大学 5号館3F（学生・女性支援センター内）
TEL：03-5803-4172　　FAX：03-5803-0412　　E-mail：ddunit.ddu@tmd.ac.jp
Webサイトをご覧ください：http://www.tmd.ac.jp/cmn/ddu/

ご意見・ご要望をお寄せください。